



令和6年度 車座集会 意見交換内容

日時	令和6年7月30日(火)14時から
場所	相浦地区コミュニティセンター 講座室1、2
テーマ	○総合グラウンド老朽化について ○相浦地区の水害対策について ○相浦工業団地について
出席者	地域参加者9名、市議会議員3名、市長ほか関係者6名 合計18名

佐世保市 市民生活部
コミュニティ・協働推進課

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:総合グラウンド老朽化について

地域参加者

- 総合グラウンドの老朽化が進んでいる。数年前から市内のスポーツ施設全部の見直しをしなければならない時期になっていると話に出ていた。本年度中に市内のスポーツ施設をどうするかの方決性を決めなければならないと考える。総合グラウンドの施設をどうしていくかという方向性は決まっているのか。
- 県北に県営のスポーツ施設がないが、県の二大都市のひとつである佐世保にあってもおかしくないのではないかと思う。行政の方で県へお願いしているのかをお尋ねしたい。
- ワークショップに参加した県立大学の学生から、相浦には商店街・飲み屋・遊ぶところがないという意見が多々あった。学生にとっては遊んだり楽しむ所が少ない地域だと痛感させられた。その中で今後スポーツ施設の方決性をつくる上でそういうビジョンを考えていただければと思った。
- 相浦未来まちパートナーズで意見をまとめ、相浦の未来図を描いたものを要望として出すので、ぜひ市長にトップダウンでこの開発を進めていただきたい。
- 会議やサークル活動にも使用できるような多機能の調理室を作って欲しい。
- 健全育成会は通常は一中学校区・一コミセンだが、相浦は三中学校区入っているため、なかなかひとつになって活動することが難しい。日野中学校区もあいあいプラザを使う形になっているが、元々の校区でないため日野中学校を代用して使っている。
この文教地区でまちづくりと言ったときに、相浦地区の一体化、佐世保市内での県北の在り方、北部地区の在り方、県北の広域圏の中での相浦がある。まちづくりの中でどういう方向性をもっていくのか。

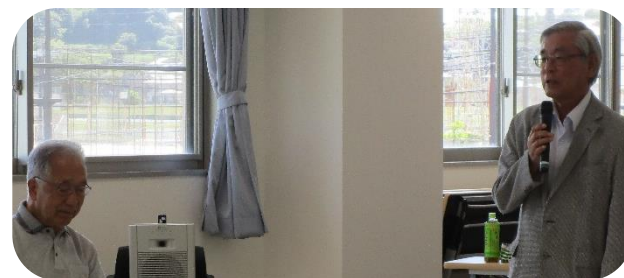


令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:総合グラウンド老朽化について

文化スポーツ部長

- 昭和43年に総合グラウンドを建設し、老朽化の状況が著しいという点は認識が一致している。文化スポーツ部スポーツ振興課が所管している施設が50以上あるが、一様にそのような状況である。また、人口減少やニーズの多様化、スポーツ施設の使い方の多様化があり、指摘いただいた通り、スポーツ施設をどうやって再編していくかというところの検討を行うよう進めている。現段階での予定としては、令和6～7年度にかけてスポーツ施設再編計画を作り上げたいと考えている。それによって方向性等も示しながら、それぞれの施設がどのような機能を持てば良いのかを含め検討させていただきたいという状況。
- 県の施設というところについては、現在県立の武道館等が市の中心部にある。今後は縣市施設の役割分担も含め、県との協議を進める必要があると認識している。
- スポーツ施設再編計画を現在作っていかこうと考える中で、スポーツ機能としての拠点づくりが非常に重要と考えている。そこをどういう風に今からまとめていくかというところはあるが、現在、取組みを進めているスポーツ推進計画のKPI(成果指標)は、拠点施設の利用者数としている。総合グラウンドはもちろん、体育文化館・東部スポーツグラウンドという拠点施設の利用者数をどうやって上げていくかという視点で現在スポーツ施設再編計画の検討に着手している。



2024.7.30 相浦地区

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:総合グラウンド老朽化について

市長

- 現在、スポーツ再編計画の緒に就いたところであり、これから1年ないし2年をかけて計画を進めていこうと思っている。これを進める際には地域の皆様方やスポーツ団体をはじめとする利用される皆様方からのご意見も聞きながら計画の充実に努めていきたいと思っている。

また、相浦未来まちパートナーズをはじめとした民間の皆様からの意見もしっかりと受け止めながら、参考にさせていただきたいと思っている。文化施設、スポーツ施設というものを中心として発展してきた相浦のことを考えれば、このスポーツ施設の見直しをひとつのきっかけとしてまちづくり全体に活かしていくことが重要ではないかと思っている。

市全体を見渡してみると、東部地区は商業施設等も随分充実しているので、バランス的なものを含めて考えればこの北部地区の生活環境の充実が必要であろうと思っている。その中で北部地区の中核地域となるのが相浦ではないかと思う。

特にスポーツという観点では、西九州させば広域都市圏というものを形成しており、長崎県の県北の市・町に加え、佐賀県の伊万里市・有田町まで含んでこの都市圏を構成している。佐世保市はもとより、県北地域全体を考えてスポーツ施設の在り方も見据えていく必要があるのではないかと考えている。

そういう意味では県の関わりも重要になってくるのではないかと思う。県北地域は県南地域と比べると県のスポーツ施設が手薄であると感じていたので、これから県に要望をしていきたいと思う。



令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について

地域参加者

- 北部地区の拠点の地区としてこの地区があるが、それにふさわしい状況を作り出していきたいという思いもある。
相浦・日野地区では大水害が起こっている。佐世保市当局の取り組みにより随分緩和されてきているが、まだ残っていて完全に解消されたわけではない。まちづくりと共に水害対策を同時進行で行っていただくよう、あわせてお願いしたい。
- 日野地区にはまだ水に浸かるところがあり、生活に支障をきたす恐れがある。これを今後完全に解消できるような手立てを講じるということで、仮設ポンプ・排水ポンプが正常に稼働できる状況を維持しておいてほしい。以前はいざという時に動かなかったという問題が起こっていた。
- 機械によるモニターが14地点に設置されているが、もしまだ必要な箇所があれば、点検をして設置していただけるとありがたい。
- 水害についてはいつ起こるか予想ができないが、想定をしながら改善をしていくというのが私たちの務めだろうと思う。ぜひその辺について、改善し、整えておいてもらえればと思っている。
- できるだけ近くに避難できるような所を見つけたり、なければ市が避難施設をつくれないのか。先日の緊急避難所開設のときも避難施設が少なかったという状況の中で少し心配だった。どういう風にお考えになられるのか。



令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について

地域参加者

- 避難所に変更があったら市民へPRしてほしい。市民は災害が起きたら前に避難した場所に行くので、変更があったらPRしてもらわないと住民は戸惑ってしまう。
- 浅子のように、避難所開設時に炊き出し等地元の方が率先して協力されているところもある。防災に対して関心がある。市民が行政に対して協力できるところは協力できると思うので、頼るところは頼っていただいて結構だと思う。
- 日野川を挟んでの避難所は厳しい状態である。簡単に道路を挟んで避難するのは厳しい。日野小学校の増改築が落ち着いたら開けてくれるのか。
- 避難所開設時、市職員が1人来られて学校の管理人の方と2人で対応されているが、地域の人知らない市の職員に話しかけるのはなかなか難しい。各地域に地域防災会を作られているが、地域の防災会と市の職員が協力して運営するという方法を取られた方が、地域の避難して来られた方が使いやすいのではないかと思います。今、市は“避難所を開設したので自分で勝手に使ってください”という感じ。もう少し血の通った、話し合いながら使える避難所の運営というのをはかってほしい。



令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について

土木部長

- 以前から浸水をしていたという部分は承知している。その都度市の職員もポンプの稼働を確認しているという状況である。県と市で河川の整備並びに浸水対策・内水対策をしている。
- 今の状況に少し触れると、まず相浦川においては平成26年から令和15年までの事業だが、令和5年度末時点で14%ぐらい、これには浚渫等も含まれていると思う。直近でいくと令和6年度においては相浦堰の改築の検討を実施中で、MRの橋の上流の護岸工について発注を予定していると聞き及んでいる。
- 日野川は平成3年から令和5年までが全体の計画期間だが、少し事業の進捗が延びている状況で、令和6年度くらいまではかかる。現在は第二鷺田尾橋を施工中というところで、ここを完了すれば日野川についても完了という状況となっていると聞き及んでいる。
- 日野・椎木地区においては、まず平成20年度に日野のポンプ場の整備をさせていただいている。また次に平成27年度には日野の第二ポンプ場を整備している。それから、椎木ポンプ・日野ポンプを、あくまでも仮設だが、平成22年に設置している。
今現在進んでいるのが、椎木のポンプ場を整備である。一応目途としては今年度末ということで水道局の方が整備している状況である。今の考えでいくと、椎木ポンプ場の整備が終われば、ある程度浸水というのは解消できるのではないかとという状況。
- 相浦地区、川下地区については、平成30年に県の方で小野川と総合グラウンドのところの余水吐の閉め切り工事をしている。その結果、浸水の被害は以前よりは低減したと聞き及んでいる。ただ完全でないのもので、そこは随時国へ要望していく。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について

土木部長

- 仮設ポンプ等の稼働について故障があったことについては大変申し訳なく思う。ここは職員、マンパワーがまずは第一だと考えており、あとはセンサー機能といったところで早く察知できるように工夫していきたいと思っている。先ほどご紹介した冠水モニタリングのシステムも共立自動車学校周辺や椎木の公民館の所にも設置させていただいているので、そういうのも見ながら市としても早めに行動させていただいて、ポンプの稼働を早めにしていきたいと考えている。



防災危機管理局長

- 相浦地区の避難所だが、前回相浦西小と日野中学校と特別支援学校の3ヶ所開設している。広報させばにも載せているが、これが第一段階の避難所ということで、大雨の警報等、すぐ対応できるような形で3ヶ所指定させていただいている。そして第二段階ということで日野小学校、大崎分校、浅子小中学校、させぼつくす99、長崎短期大学、高島分校の6ヶ所を備えている。特に令和2年の9月に大きな台風が来た時にはここを開設し、全市的にも5000人ほど避難された。相浦地区でも当時800人ほど避難されたという状況がある。
- この他にも、例えば地震や大規模災害となれば、九州文化学園や実業高校、風水害以外ではコミセンも使えるし、相浦小・中学校、県立大学、総合グラウンド体育館を構えているところである。やはり不測の事態に備えてできるだけたくさんの方が避難されるような時は、避難所の数も増やしていきたいという風に構えているところである。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について

防災危機管理局長

- 市民へのPRについて、広報させぼなどにも載せているが、いろいろな媒体を使ってお知らせしていきたいと思う。
- 避難所は市の職員を動員して、第一段階で30ヶ所程開設する。
大雨が降っている時、台風がきている時、町内会の皆さんたちに手伝ってくださいというのなかなか難しいところもあるかと思う。市としても地元住民に協力していただければありがたい話なので、自主防災組織・自主運営避難所等研究をさせていただきながら全体的な組み立てもできればと思う。
ただ、私たち防災危機管理局13名ほどの職員で全体的なことを見ていくので、やはりいざという時になかなかこちらから個別に連絡するというのが難しい状況がある。そういったことで防災無線であるとか、またそれを防災ラジオで流すという取り組みをやっている。



2024.7.30 相浦地区

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦地区の水害対策について



2024.7.30 相浦地区

市長

- 共に助け合うという共助の精神を基に地域の皆様方と一緒に防災対策も強化をしていかなければならないという風に改めて感じたところである。浅子地区のように非常に地域のつながりの深いところもあるので、そういう例を参考にさせていただきながら、それぞれの地域でしっかり防災に係る体制をつくり上げていければと思っている。水害対策については、逐次この対策というものを県と市で連携しながら進めているところである。まだ十分ではない部分もあるので、そうしたことを念頭に置きながらこの水害対策を鋭意進めていきたいという風に考えている。また、安心した新しいまちづくりにあたっては、新たな環境、状況の変化というものもでてくるので、そうしたことも見据えながら並行してこの水害対策というものをやっていく。この水害対策については特に相浦地域においては最重要課題と位置付けながら、これからも進めさせていただきたいと考えている。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦工業団地について

地域参加者

- 相浦工業団地にどういう企業が来るのかずっと心待ちにしているが、一向に決まったという話を聞かないので、今現在どういう状況になっているのかお聞かせ願いたい。
- 結構な数の企業が視察されているということだが、決まらない大きな要因としてどういうことが考えられるのか。
- 相浦工業団地は現在草が茂っていて整備が全然なっていない。見学に来た企業にどう思われるか。
- 企業から見たら、入ってから水道関係の設備や周りの側溝などについて全然わからなくて迷われると思う。そういう設備を少ししてから企業に見学に来てもらうとか考えないと、もう企業誘致は無理ではないかと思う。

- 誘致する企業の雇用の規模はどれくらいか。



2024.7.30 相浦地区



令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦工業団地について

経済部理事

- 工業団地の進捗について、分譲開始して4年半から5年程経過しているが、ちょうど分譲開始した令和元年の10月頃、まずコロナ禍があり、またウクライナ情勢等も不安定な中、誘致への営業活動に対して行動制限がかかったり、企業側も投資について不透明な部分があって苦戦した部分があった。

コロナ禍も収束し、市の営業も活発にできるというような状況になり、例えば相浦工業団地への誘致の実績、視察の実績は、令和5年度は14件あった。

内容としては、半導体の企業もあるし、自動車関連であったり、空調機関連、あとはお菓子の製造等様々な企業にきていただいているが、令和3年度が6件程度だったので、視察の件数も少しずつではあるが増えてきているという状況。

市としては、相浦工業団地に興味を抱いていたいた企業とさらに具体的な提案等もしながら関係性を深めていって、一日も早い企業誘致の実現、相浦地区の皆さんに良い報告をしたいということで取り組んでいる状況である。

- 相浦を視察にきている企業は、長崎県内の他の工業団地も見ているし、日本国内あるいは海外などいろんなところを比較をして用地を選定されているという部分がある。

佐世保の売りとしては、佐世保高専だったり佐世保工業だったり長崎県立大学であったり、様々な人材、優秀な人材がいるので、そういった面をアピールしながら企業誘致をしているところだが、現段階ではまだなかなか企業誘致に繋がっていないというのが現状である。

地震の少なさもというのもあるので、そういったところもアピールをしながら今後企業誘致を進めていきたいという風に考えている。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦工業団地について

経済部理事

- 工業団地も4年半が経って、特に夏には雑草が生えている。対応としては、企業が視察に来る前には職員総出で草刈りをしているところである。
また、周辺の施設との関係だが、今のところ工業団地の手前まで下水道が整備されていて、場内については、立地した企業の営業形態等によって様々都合があるかと思うので、企業が決定し次第、そのあたりは企業側でやるのか、市でする部分があるのかというところを含めて検討したいという風に考えている。
- 相浦工業団地への雇用の規模については、200人程度を想定している。ちなみにすぐ近くの小佐々のウエストテクノが約1000人規模の工業団地になっている。あそこが約16万平米で約1000人だが、相浦工業団地が約6万平米ということで、そのほかの工業団地の状況等も見て、想定としては200人程度の雇用、従業員の方が入られるという風な想定をしているところである。



2024.7.30 相浦地区

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:相浦工業団地について

市長

- 相浦工業団地の件については、本当に4年半の長きにわたり地元の皆さん方にはいろいろとご心配をいただいていることを大変心苦しく思っているところである。

4年半という月日を振り返れば、やはりコロナ禍という非常に大きな影響があり、そのことによって事が進まなかったという部分もあるが、しかし一方で熊本で大きな半導体の工場ができるというような話ができきたり、また昨今でも新たな工業団地の予定が計画をされることが報道されたりすることを見れば、やはり相浦工業団地はどうなっているのだろうかのご心配が募っているのではないかという風に思う。

そういう中で、視察をしていただく企業もようやく増えつつあり、この相浦工業団地にも注目が集まっているという風に思う。

- もちろんまずは市が積極的にこの相浦工業団地の売り込みを行わなければならないというように思いで、私も就任して以降トップセールスとして各企業の訪問、また地元でお会いすることも含めて、これまで1年3ヶ月の間に37社とお会いをして、話をさせていただいている。この相浦工業団地のいろいろな利点、地震の少なさや電力の安さなどを相手方に話しながら営業しているところである。

残念ながら今のところ決定までは至っていないが、実は確かな反応というものもいただきながら進めさせていただいているので、もっとこのトップセールスも含めてしっかりと強化をしながら頑張っていきたいと思う。

手前味噌ではあるが、企業立地推進は年間1000件の面談を目標に東奔西走しながら頑張っているということもお伝えをさせていただきたいと思う。いずれにしても結果がでないといけないので、一日も早く地域の皆様方には良い報告ができるようにこれからも頑張っていきたいという風に思う。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

地域参加者

- 公共交通が不便。運転士不足はわかっているが、学生がバスがなくて大変困っている。
- 高齢者には敬老パスがある。ワークショップの際に、学生にも敬老パスのようなものがあるといいなと言っていた。大学生に補助は難しいと思うが、高齢者が増加していく中で“一路線、一回の乗車にいくら“という方向でお金を取れば、バス会社にもお金が入るのではないか。
- 全国的な乗務員不足やバス会社の採算性から考えれば無理な要望はできないということはわかっているが、大幅にダイヤが減った上に時間帯によっては運行間隔がでたらめになっており、大変利用しづらい。ダイヤカットはやむを得ないが、カットされた中で少しでも運行間隔のバランスをとったダイヤ編成に心がけてほしい。
- バスの利便性がひどく悪くなっている中で、敬老パスで松浦鉄道も利用できたらいいという話をよく聞く。何か考えられないか。
- 雑種地になると、家が建っている土地より固定資産税が数倍かかる。そのため家を壊したくないという人が結構多いのではないかと。空き家対策として、その辺がどうにかならないのかと思う。



2024.7.30 相浦地区



令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

市長

- 公共交通・空き家対策のことについてご指摘があった。この2つの問題というのはまさに本市を含め全国の中でもっとも深刻な問題だろうという風に認識をしている。
- 本市にとっての最重要課題の一つは、公共交通をどうやって維持していくのか、これが大きな課題だろうと認識している。
公共交通もコロナ禍によって随分利用者が少なくなっていた。国も県も市も随分補助金等により公共交通の対策を行ってきた。コロナ禍が明け、補助金は終わったものの乗客はなかなか戻らないという状況に至って、今まさに経営的には非常に深刻な状況になっているのではないかと思う。加えて運転士不足というまさに全国共通の課題。これは運転士だけではなく、本当にすべての産業でこれほど一気に人手不足がきたかなと今痛感していて、そういう意味でもすべての業界でこれからどうやって人材を確保していくのかというのが重要になってくるのではないかと思う。
- 地域未来共創部という新しい部をつくり、対策をとっていくこととしている。部長に対してもこの公共交通の維持というものを最重要課題という風に念頭に置きながら仕事をするように指示をしている。本当に難しい問題だが、計画の緒に就いたところである。
- ダイヤの減少について、事業者からは話があるが、なんとか食いとどまりながら今の路線ダイヤを確保していきたい。
- 新しい交通手段というものも利用していかなければならない。すでに地域によってはまめバス、コミュニティバス、デマンドタクシー等の導入もはかっているが、そういうことを新しい公共交通手段を使っていきながら補完していかなければならないと思うし、ライドシェア等も活用していかなければならないと思う。
学生のバイトや夜のまちの活性化などにおいても、そういった手段の新たな設置というものを考えていきたいと思う。

令和6年度相浦地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

市長

- いずれに対しても、この問題というものは非常に深刻であるので、やはり地域の皆様、特に高齢者の皆様方の足をどうやって確保するかということをも最重要課題としながらこれから取り組んでいきたいと思う。
- 空き家も非常に重要な問題で、空き家の利活用をこれからどうやってはかっていくのか、いわゆる個人の所有の持ち物に対してなかなかできない部分、制約があるわけだが、国・県と連携しながらこの対策というものに取り組んでいかなければならない。
また、利活用というのも可能な限り考えていきたい。これは地域が違って恐縮だが、例えば空き家を利用した観光施設・宿泊施設の整備というものも他の地域で考えられているようで、北九十九島地域においては橋川内、江迎、小佐々、こういった地域の空き家等を利用して宿泊施設として活かすことができないかを考えている。
海外でもそういうやり方というものはやっているようで、例えば空き家が10軒あればそれを一つにまとめてホテルや旅館みたいにみなして、

それを事業者が管理していく。イタリア等ではアルベリゴ・ディフーゾというやり方だそうだが、そういう民間の家を利用しながら宿泊施設につなげていくというやり方もあるようで、本市においても北九十九島の観光の振興でそうした空き家の利活用というものをやっていこうという風に検討している。
いろいろな方法がでてこようと思うし、国と県との連携も必要と考えているので、今後も空き家の利活用に努めていきたいと思っている。

